

問

ごみの収集および処理はどうなるのか

町長

生ごみは変わらず堆肥化して還元

生ごみの収集は

問 令和7年4月から置戸町は生ごみと燃やすごみの分別方法一元化することになったが、本町はどうなるのか。

町長 生ごみは堆肥化して町民に無償還元するという環境にやさしい理想的な取り組みを行っているが、堆肥の配布を希望する方々にも大変喜ばれているので、

今後も継続していく。

クリーンライフ

センターについて

問 報道では一部事務組合化し改修工事を検討するようだが、北見市

から提案はどのようになっているのか。

町長 今後について、運営方式はもとより、建て替えか改修かを含め、あらゆる選択肢を検討している段階で白紙の

状況であると説明を受けた。その後開催された北見ブロックごみ処理協議会でもそのような提案はなかった。

町民への周知は

問 これらの情報をどのように町民に周知し理解を得るのか。現時点での考えは。

町長 ごみの分別方法については来年度のごみカレンダーにて周知したい。クリーンライフセンターの件は一定程度の検討が進んだ段階で町民のみなさんに情報提供していきたいと考えている。



吉野 美香 議員

抱きかかると少しの辛がやっ
と春がやってくる

問

小中学校の英語教育の現状は

教育長

実践的な英語力の向上を図る

新学習指導要領

問 小学校の英語教育はどのような内容で実施されているのか。

教育長 1・2年生は生活科の中で英語を使ったゲームなど、楽しみながら英語に慣れ親しむ授業を実施。3・4年生は数字やアルファベット、あいさつなどを学び、歌やゲームを積極的に取り入れ、学習への意欲を高めるよう授業を実施。
5・6年生では教科書を使い文構造や文法を学習しながら、会話や読み書きの幅を広げ、中学校での英語教育にスムーズな接続が図れるよう実施している。



問 中学校では「コミュニケーション能力を育成することを目指す」となっているが、どのように実施しているのか。

教育長 生徒がペアになりお互いに英語で対話したり、自分の考えを表現する、伝える活動を実施。自らコミュニケーションを図るような積極性が身につくような学びを実施している。
問 新学習指導要領における英語教育の成果は。
教育長 小学校では早期に英語に触れることで、発音やリスニングの基礎が身に付き、実践的な英語力の向上が図られている。中学校では、対話を通じて自分の考えを表現するような英語教育に変わりつつある。簡単な英会話でコミュニケーションをとれる生徒が出てきている。

